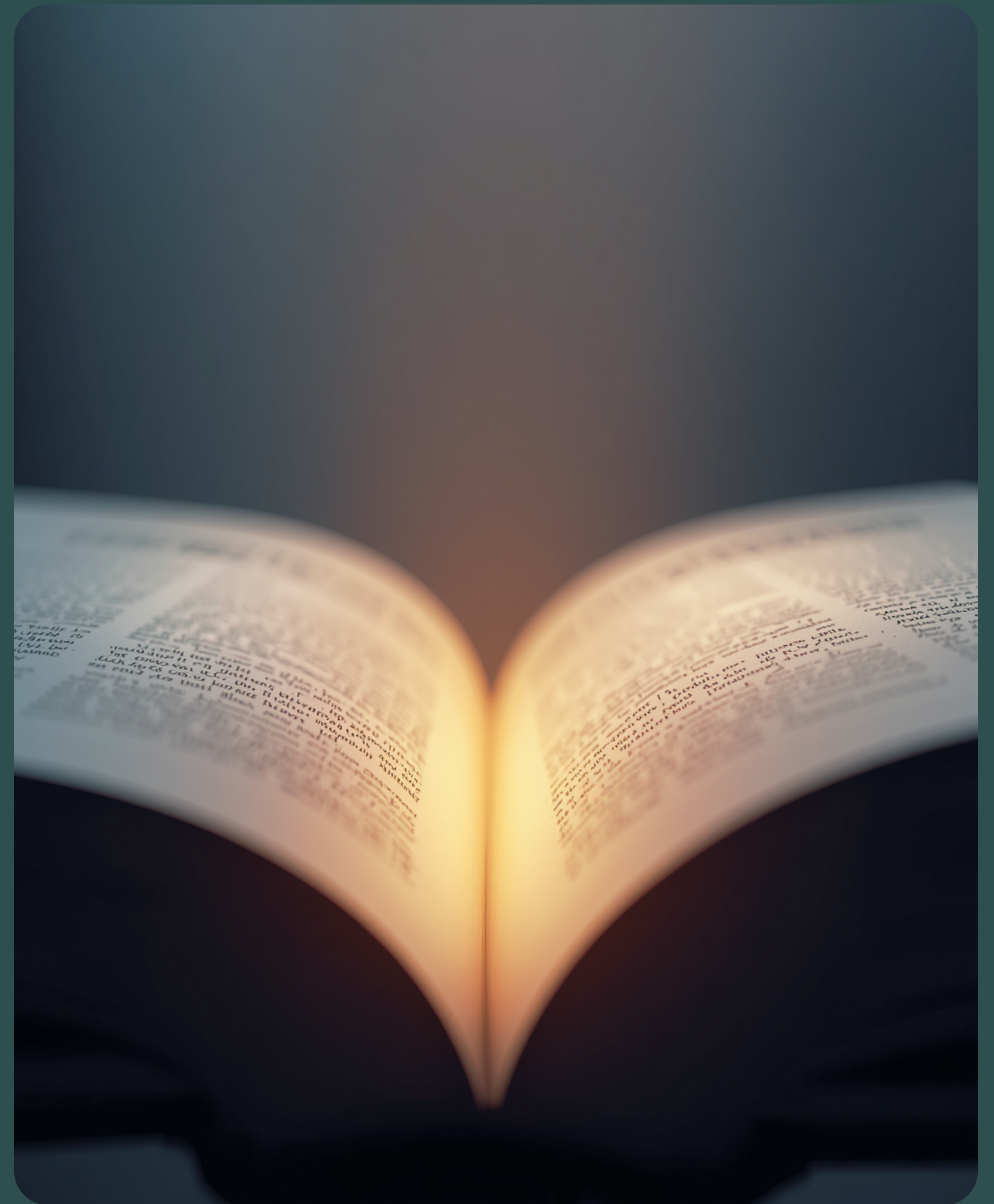


【勉強】

何のためにあるんだろう

ー 親から子へ ー

勉強を「道具」として
捉え直す話（第1部）



正直に伝えたいこと



親からの正直な告白

「勉強なさい」と言ってきたけど、理由を聞かれても「将来のため」としか答えられなかった。自分もそう言われて育っただけで、本当のところを考えたことがなかったからだ。だから今回は、教えるんじゃなくて一緒に考え直したい。

やめるのは勉強じゃない

手は止めなくていい

課題も講座も、計画通り進めていい。止めてほしいのは「何のためか分からないまま続けること」だけだ。



時間がある夏 だからこそ

計画は計画で進めながら

計画的に遅れを取り戻すことは、しっかりやろう。そのうえで、夏休みはいつもより時間がある。その一部を「何のためにやるのか」に使ってほしい。



君のせいじゃない

やる気が出ないのは、君の意志が弱いからじゃない。「将来のため」という理由が、中身のない言葉だったからだ。言っている大人自身も、本当のところを分かっていない。分からない言葉で動かされようとする、人は反発する。それだけのことなんだ。

君はちゃんと机に向かっている。時間も使っている。足りなかったのは努力じゃなくて、自分の言葉で言える理由だ。それが見つかると、同じ勉強がまったく違うものになる。この夏は、それを探す時間にしよう。



勉強は「道具」だ

見方を変えてみる

勉強は、えらいものでも神聖なものでもない。世の中にたくさんある道具のうちの一つだ。道具は「何かの不便を解消するため」に生まれる。では勉強は、どんな不便を解消する道具なんだろう。



良いも悪いも ない

スマホで考えてみよう

君のスマホは勉強にも使えるし、一日を溶かすことにも使える。
悪いのはスマホじゃなく、使い方だ。



勉強の悪用

勉強という道具にも、間違った使い方がある。知識を使って人を言い負かす。勉強ができない人を見下す。詳しくなった分野の知識で、人をだます。勉強に没頭しすぎて、人の気持ちが分からなくなる。

でも「悪用できるなら捨てろ」と言うなら、世の中の道具は全部捨てることになる。だから問題は「やるかやらないか」じゃない。「何のために使うか」だ。



共通の目的

お金は何のためにあるだろう。服を買う、旅行する、ライブに行く。でも「服に興味がないからお金はいらない」とはならないよね。全部に共通する目的は、価値を交換することだ。

勉強も同じだ。「大学に行くため」は、たくさんある用途の一つにすぎない。だから「大学に行かないから勉強はいらない」も成り立たない。用途ではなく、共通の目的でとらえないと、道具の使い方を間違える。





忍耐力

壁にぶつかっても、越えるほど次の壁も越えられるようになる。

自信

小さくできた経験が積み重なって、自分への信頼になる。

考える力

記憶力、判断力、応用力が鍛えられ、頭の使い方がうまくなる。

素直さ

人から学ぶには、自分のこだわりを一度手放す必要がある。

共感力

できない悔しさも、努力を見てもらえない悔しさも経験できる。

勉強を通じて得る5つの宝物

才能の正体

同じ日に、同じゲームを始めた二人がいる。半年後に上手いのは、長くやったほうだ。当たり前の話だよね。才能に見えるものの正体は、たいてい積み重ねた量の差だ。

テスト前日に三時間やった人と、やらなかった人に差が出るのも同じこと。一番成長を止めるのは「自分はこういうのが苦手だから」という思い込みで、それはだいたい周りの大人の一言から始まっている。



心の成長が結果を生む

親が子どもに習い事をさせる本当の理由は、プロにするためじゃない。続ける力、負けた悔しさ、仲間への感謝。そういうものを育てたいからだ。もし親がコーチに「心はどうでもいい、技術だけ鍛えてプロにしてくれ」と言ったら、どうなるだろう。

答えは一つしかない。

「それは無理です」

勉強も同じだ。心の成長を飛ばして、結果だけ手に入れることはできない。点数は結果であって、目的じゃない。



人類の英知



勉強とは、英知を受け継ぐこと

ある数学者が一生をかけて見つけた答えを、君は数分の説明で自分のものにできる。人類が受け継いできた知識と知恵を、自分のものにすること。それが勉強だ。一人でできて、いつでもどこでもできて、年齢のピークがない。だから自分を磨くための最良の道具なんだ。

学校外の勉強

社会に出ると、学校の授業とは別の勉強が今まで以上に必要になる。仕事、お金、人間関係、健康。全部が勉強の対象だ。あらゆる年齢の人が、それぞれの毎日の中でその必要性を感じている。

親である自分も、いまだに毎日それを実感している。学校の勉強は、その練習台にすぎない。「学校を出たら終わり」じゃなくて、ここからずっと続く。今のうちに慣れておくと、あとがずっといぶん楽になる。





君は勉強という道具を使って、 自分の何を鍛えたい？

すぐに答えなくていい。この夏のあいだ、ずっと考えていていい。

ただし、見つかったら紙に書いてほしい。

考えていないものは、絶対に手に入らないから。

思いっきり欲張っていい。

－ 第1部 参考文献：喜多川泰『手紙屋 蛍雪篇』